

JASCT

ニューズレター

第8巻第3号

平成元年(1989年)9月

発行人:松本清一 印刷所:絢文社

第9回 日本性科学会のご案内

会 期 平成元年10月14日(土), 15日(日)
会 場 北九州市:産業医科大学 ラマツィーニホール
学 会 長 岡 村 靖 (産業医科大学産婦人科教授)
内 容 14日(土)

1. 講 演

招 請 講 演 アメリカにおける性の現状と対策

California Mental Health Nurse & Social Worker Tomie Sasaki Kratz

学会長講演 女性の一生の性における心の問題の重要性について

学 会 長 岡村 靖

2. シンポジウム 思春期の性教育及び性教育

内 容 15日(日)

1. 講 演

招 請 講 演 動物における性行動と環境因子

福岡市・海の中道海洋生態科学館館長

森友 忠生

基 調 講 演 月経教育を考える

自治医科大学看護短期大学学長

松本 清一

教 育 講 演 中高年の夫婦生活における心への配慮の重要性

産婦人科の立場から

日赤医療センター副院長

野末 源一

泌尿器科の立場から

聖マリアンナ医科大学教授

長田 尚夫

妊婦の死亡原因分析

三井記念病院産婦人科部長

本多 洋

2. シンポジウム 未完成婚(結婚時の夫婦生活のつまづき)の治療

エイズの予防に関する問題

3. 一般演題発表

お問い合わせ先: 産業医科大学産婦人科学教室

TEL 093-603-1611(内2443)

FAX 093-691-9337

住所 北九州市八幡区医生ヶ丘1-1

Vol. 8

No.

3

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(475)1780 FAX 03(475)1789

Sexology 事始め (第11回)

ブラジャー事始め

医学博士 石 濱 淳 美

ブラジャーとは、フランス語のブラシエール (brassiere) を英語流に発音したものである。

ブラシエールは、14世紀から17世紀にかけて、男女が夜着としてまとっていたチョッキのような衣服のことである。乳房を押えていたので「乳押さえ」ともいわれていた。

ブラジャーの発祥は古代ギリシャ時代といわれ、当時の女性は細長い布を胸に巻きつけて乳房を押さえていた。当時は女性の魅力はヒップとされており、バストなんかはどうでもよかったからである。

ところがルネッサンスに入ると、男性の好みは女性の胸に集まるようになり、しばらくはノーブラの時代が続いた。その後教会の圧制に会い、前回のべたコルセット時代に入る。

ある日イタリアの少女マリー・クロスビーが、コルセットの下部3分の2をハサミで切り落とし、上部の胸の部分だけを着けて夜会に出席し、大評判となった。これがブラジャーの原型となった、ボルスター誕生のきっかけである。

ヨーロッパで大流行をしたのは、第一次大戦時代である。戦争ともなれば女性も男性同様働かねばならず、コルセットで締めつけられた体では思うように働けず、コルセットを脱げば乳房がブラブラして重心が不安定、そこで当時売り出されたブラジャーを買ってバストを押えたという。

日本女性で最初にブラジャーをつけたのは、明治4年アメリカに留学した津田梅子と4人の女子留学生といわれている。当時津田ら日本の女子学生は、当時アメリカの女性のブラジャーに大変な興味をひかれたという。

しかし、一般の日本女性がブラジャーを着けるようになったのは、やはり戦後のことであり、その意味ではブラジャー事始めは戦後からである。

戦後アメリカの進駐兵士家族が日本に持ち込み、それを目にしたパンパン (街娼) が着けだしたのが、わが国ブラジャー流行の始めである。

このブラジャーは、イタリアの少女が考案し、その後1912年になって特許が認められたが、例の少女は巨万の富を手にする前に死亡したといわれている。

わが国では、現在のワコールがブラジャーにいち早く目をつけ、女性の下着会社をつくって売り出した。

ブラジャーが本格的に売れ出したのは昭和25年で、日本で始めて下着ショーが開かれたのは昭和27年である。前回のべた鴨居羊子らがさらにこれに火をつけ、昭和32年にはブラジャーの売り上げは急上昇した。

その後ワコールはつぎつぎに新製品のブラジャーを開発した。たとえば、「ストラップレスブラ」といって、肩や背中をみせるファッションには欠かせないブラで、肩ひもつまりストラップが取り外し自由のブラである。

これに対して、わざとストラップを見せちゃおうという「きらきらストラップ」(ワコー) というブラも作られた。読んで字の通り、パールやチェーン、組ひもなどカラフルにして、光るものまでバラエティーあふれるストラップブラである。

その後60年日経年間最優秀製品賞に輝いた「くみっかえってブラ」などという、楽しくてたまらないブラが開発されている。

現在わが国では、10代前半ではノーブラでもかまわないが、後半の女性はほとんどブラをつけている。運動するときバストがブラブラするので、トップとアンダーの差が5.5センチ以上になったら、ブラジャーを着けるといわれている。

ブラジャーは化粧品と同じく消耗品で寿命がある。ブラジャーが皮膚と一緒に動くためには、バンドが決め手である。毎日同じブラを使っていると、2〜3カ月でダメになるといわれ、サイズの小さいのを伸ばして使うと、さらに寿命が短くなる。

ノーブラ・スポーツはバスト・ダウン間違いなしで、運動によってバストが受ける衝撃は想像以上に大きく、上下左右の振動はバストを下げる原因になる。

スポーツ用ブラはフルカップが条件で、素材は胸を張ったときカップの部分がよく伸び、吸汗性がよいコットン・ジャージーが最適である。

ノーブラで寝るとバストが崩れるというのは行き過ぎで、寝るときは一糸まとわぬ姿でシャネルの5番だけをつけて寝たという、マリリンモンロー型が健康上は理想的である。

ブラジャーのような、胸を締めつけるものを着て寝るのは健康上よくない。

これまで私の記憶に残っているブラジャーでは、背中に廻った甘食型スポンジブラジャー、左右カップの色違いブラジャー、乳首のところだけ孔の空いているブラジャーなどである。

「ティーンズ・ライブラリー」の開設

レディースクリニック・ハヤシ院長 林 知恵子

神戸で、レディースクリニックを開業して約5年になりますが、訪れて来る女性の約6割が20代、約2割が10代と若く、妊娠して訪れた中学・高校生は百人を超えています。診療活動を通じて若者達と接していると、現代の社会が、若者に深刻な影響を及ぼしていることを痛感させられます。

その要因のひとつとして、マス・メディアの発達に伴う、性情報の氾濫があります。その情報の大部分は、誇張されていたり、一面的なものにすぎないにもかかわらず、若者はマスコミの情報と自分とを比較して、自分が異常なのだと思います。込んで混乱しています。昨年末から、ティーンズ・ライブラリー開設のための準備として、リサーチをかねた手紙相談を行い、約200通の手紙が集まりましたが、一番多かったのが月経不順、次いで性器の形や色について、おりものと続きました。その中でも、特に女の子が、マスコミの情報と自分を照らし合わせ、自分の体が異常と決めつけ、「このままでは彼にも嫌われ、結婚もできないのでは？」と不安をつのらせているものが多くみられました。初潮を迎え、外性器が大きくなるなど、思春期の急速な自然の体の成長に、彼女たちは戸惑い、誰にも相談できずに、真剣に悩んでいるのです。

しかし、これらの悩みのほとんどは、親や友人にちょっと聞けば済むことなのに聞けない。コミュニケーションが少なくなってきたことが、若者の性に対する混乱に拍車をかけています。昔は、近所のお姉さんとか、クラブの先輩や、同姓の先輩が、良い事も悪い事も教えてくれたものですが、今は若者の社会が個別化している。同年齢の友人も、悩みを相談できるだけの、深い関係ではなくなってきました。親子のコミュニケーションも、親からの一方的命令ばかりで、子供のことを理解しようと、じっくり聞いてやれる親が少なくなってきたように思います。だから、子供も次第に親にものを言わなくなってしまう。子供の教育が母親任せで、父子の関係がなくなってきたのも影響しています。つまり、母親の感覚で性をとらえる為禁止事項が多くなる。その上、性教育に自信がないため、逃げ腰になりがちです。大切なのは、まず子供と同じ目の高さで聞いてあげること。「そんなこと、まだ考えなくていい」と決めつけるのは最悪です。家庭の性教育で大事なものは、何をどこまで教えるか、ではなく親に聞けるコミュニケーションが、普段からできているか、ということでしょう。その意味で、この手紙相談の内容は、深刻な一面をのぞかせているように思えます。

このように、若者のコミュニケーションが希薄化する一方で、若者は深い心のつながりを求めています。その表れとして、「ファンタジー・ベビー」を夢みる少女の出現があげられます。彼女たちは、現実には赤ちゃんを育てる厳しさを把握しないまま、「赤ちゃんが欲しい」の一心で、出産を決意します。満たされない現実の人間関係、家庭像を赤ちゃんに求め「赤ちゃんがそのまま、幸せな家庭を連れてくる」と信じているのです。

以上のように、現代の若者は、家庭や学校での性教育、コミュニケーションの欠如、マスコミの興味本位の情報によって、孤立しています。正しい性知識さえあれば、悩まなくてもよいことで悩んだり、手遅れになって自分を傷つけなくてもすんだのに…、という現実を日々目の当たりにしてきて、治療の前段階での、性知識を提供する場、相談所の必要性を考えてきました。そして、近々、低用量ピルが解禁される。というニュースを聞き、ピルの解禁までに、STDの防止をも含めた性教育の場を実現しなければ、と思い「ティーンズ・ライブラリー」を泌尿器科医、石川英二先生と共に、今年6月1日に開設しました。

ここでは、知識を教え込むのではなく、若者が自ら学ぶことを目標としています。そのため「性からだ」に関する本やビデオを置いた待合室を設け、自分自身の体についてはもちろん、異性の体についても、正しい知識を身につけてほしいと思っています。さらに、相談したい人のために、看護婦、養護教員、助産婦など資格を持つスタッフが、専門知識を生かしたアドバイスをを行っています。このオープンスペースが、「街の保健室」として、1人でも多くの若者に利用され、若者自身で悩みを解決し、問題を回避していってくれることを願っています。

編集部より

本年8月22日付朝日新聞に「10代の性」が家庭欄に掲載され、JASCT会員である、林知恵子先生の活動が紹介されました。そこで編集部としては是非コメントをお願いいたしましたところ、引き受けて頂きました。今後のご発展を願っております。

長田尚夫 記

松本清一会長に保健文化賞

第一生命が保健衛生の分野ですぐれた業績をあげた団体と個人に贈る第41回（平成元年）保健文化賞を、個人の部で松本清一本協会会長が受賞されました。松本会長の今回の受賞は、わが国最初の思春期外来の開設など、単に学問的な面だけでなく、社会のニーズを見越した活動の実践とその業績が高く評価されたもの。

今回の受賞者は、団体の部が滋賀県甲南町など11件、個人の部は平山雄予防がん研究所長など4件。9月21日東京・赤坂のホテルオークラで、表彰式が行われ、翌22日皇居で天皇陛下に拝謁されました。

学会のお知らせ

第22回 Annual Meeting

主 催 American Association of Sex Educators Counselors and Therapists (AASECT)
期 日 1990年2月15日～19日
場 所 アメリカ合衆国 バージニア州 アーリントン

第9回 World Congress for Sexology

主 催 WAS (World Association for Sexology)
期 日 1989年12月3日～8日
場 所 南米ベネゼラ Caracas
会 長 Dr. Fernando J. Bianco

本学会出席のためのツアーを企画しました。帰途アメリカに立ち寄り、マスターズ・ジョンソン研究所を見学し、両先生との懇談会も予定しています。

ツアーの取り扱いは下記まで。

藤田トラベルサービス

03(289)0548

担当者 藤 村

事務局だより

● 新入会員 ●

— 会費納入のお願い —

10月より新しい年度（平成1年10月1日～平成2年9月30日）に入りますので、年会費15,000円の納入を、よろしくお願いいたします。手数料が無料となります。会の郵便振替用紙を同封しますので、ご利用下さい。

銀行振込の場合は： 横浜銀行青山支店 普通預金918-042002 JASCT代表 野末源一 です。